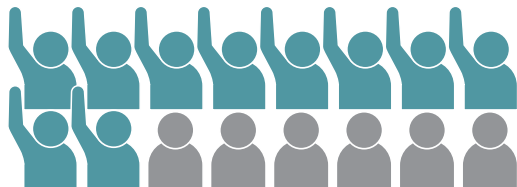


一般質問とは？

皆さんの生活に関わる大切な事柄について、議員が提言も含め町に考えを聞きます。
 今回の一般質問で、あなたの生活に関わる内容はありますか？



16人中10人が登壇

町政を問う！

一般質問

3月5日・9日

▶ YouTubeにて議会映像 配信中！



各議員の記事に掲載の二次元コードを読み込むと、その議員の一般質問の様子を動画でご覧いただけます。
 ぜひ、ご視聴ください！

CONTENTS

まちづくり

- 東浦中学校移転先候補用地について
 山田 眞悟 P12

安全・安心

- 本町の大規模災害を想定した災害予防に対する見解と町として対応可能なことは
 久松 純志 P11
- 緒川相生交差点の渋滞対策と歩行者用信号設置について
 森 靖広 P13
- 金属スクラップヤード等の対策について問う
 長坂 知泰 P14

くらし

- 高齢者等の移動課題の解決に向けた交通と福祉の連携は！
 間瀬 宗則 P11
- 東浦町運行バス「う・ら・ら」のさらなる発展を願って
 山田 眞悟 P12
- 生ごみの資源循環サイクルの構築について
 大川 晃 P12
- 物価高騰下における水道料金の値上げの見直しについて
 杉下久仁子 P15

子育て・教育

- 学校給食について
 秋葉富士子 P14
- がんばってみえる町内の小・中学校の先生方
 前田 明弘 P15
- 愛知県の体力テスト全国平均を下回る
 前田 明弘 P15

健康・福祉

- 胃がん検診における胃内視鏡検査(胃カメラ)の導入について
 間瀬 宗則 P11
- 新型コロナウイルス感染症に関する認識と今後の対応について
 大川 晃 P12
- ひきこもり支援について
 赤川 操恵 P13
- 生活困窮者の住宅支援について
 秋葉富士子 P14

その他

- 豆搗川ジョギングコース整備について
 大川 晃 P12
- ハラスメントの未然防止と信頼される相談・調査体制の構築について
 杉下久仁子 P15
- 職員の超過勤務時間の解消と、次世代育成支援の観点からの働き方改革について
 杉下久仁子 P15

NEWS

今回の定例会から

ライブ中継を開始しました！

スマートフォンやパソコンから、
 ご自宅でも議会の様子をリアルタイムでご覧いただけます。
 身近な町政を知る機会として、ぜひお気軽にご覧ください！



Q 大規模災害を想定した予防は

A 早期の整備を県へ働きかける

Q 大規模災害を想定した災害予防として、河川、海岸堤防等の管理主体は。

A 影響の大きい二級河川や海岸堤防の管理主体は愛知県。洪水・高潮、堤防の耐震対策等、早期の整備完了を働きかける。

Q 河川、海岸堤防の防災対策は。

A 豆搗川堤防の耐震対策は完了し、高潮対策が進行中。完了後、須賀川も高潮堤防を整備予定。

東浦海岸堤防も整備中で、石浜地区は令和8年度完了予定。生路地区は7年度から着手済みで、藤江地区も順次事業化が検討される。現況の堤防は耐震性能を満たし、高潮対策も想定計画高潮位を満たす高さに整備されている。

Q 災害リスク低減の取り組みは。

A 町東部は、洪水や津波等の災害ハザード^①の想定範囲が広い。

「公助」では、様々なハード対策を進めているが、公助だけでは限



ひさまつ ただし
久松 純志
議員



界があるため「自助」が重要。

住民それぞれがハザードマップを確認し、自宅や勤務先の災害リスクの把握が大事。大規模災害時は、地域全体で支え合う「共助」の取り組みが、避難行動や救助活動等につながる。

Q 町と自主防災会との連携を。

A 8年度の町総合防災訓練は、開催予定地区の藤江地区防災会と調整し、避難訓練・消火訓練等実践的なプログラムを実施したい。訓練開催で自主防災会との連携を深め、地域防災力の向上を図る。



Q 高齢者等の移動手段の検討は

A 「ウラ・うらら」実施を目指す

Q 高齢者等のフレイル^②予防には、気軽にお出かけできる交通手段が必要。福祉と交通が連携して、移動手段を検討する考えは。

A 運転免許証の返納や身体機能の低下により、外出困難に陥る高齢者の増加は重要な課題である。すべての高齢者が、安心して外出できる環境づくりを進めることがフレイル予防につながる。福祉部門のみでなく交通をはじめ全庁的な取り組みが必要と認識。

Q 共助版ライドシェア^③「ウラ・うらら」の各地区の事業展開は。

A 実施に向け、全庁的なプロジェクトチームを設置し、社会福祉協議会、地域住民等と協力して進める。地域コミュニケーションや住民との意見交換会を実施し、事業実施が可能な地区は、運転ボランティア等協力者の募集等準備を進める。

Q 運転ボランティアの確保等持続可能な移動手段となるよう、

継続可能な移動手段となるよう、



まへ むねのり
間瀬 宗則
議員



▲共助版ライドシェアは住民が運転手として移動を支えます。

自家用有償旅客運送（公共ライドシェア）等検討する考えは。

A 公共ライドシェアや自動運転技術等新たな交通モードも選択肢に加えた情報収集を進め、持続可能な公共交通の実現を目指す。

Q 胃がん検診に胃カメラを導入

A 胃カメラを導入し、受診者が選択できるよう、令和4年9月議会でも要望したが、検討経緯は。

A 町内医療機関と協議し、3カ所で開催可能と判断。8年度から導入する。

語句説明

①災害ハザード…災害ハザードとは、洪水や土砂崩れなど、脅威となる自然現象の存在やその大きさ

②フレイル…加齢により心身が老い衰えた状態 ③共助版ライドシェア…地域住民がボランティアドライバーとして支え合う地域交通の仕組み

「う・ら・ら」の発展を

A 公共交通の利便性向上に取り組む

Q 町運行バス「う・ら・ら」の発展のため、中学生以下と75歳以上の運賃無料化を。

A 公共交通の利便性向上を目指し、多様な移動サービスを踏まえた負担の在り方を検討することで、誰もが安心して外出できるまちづくりを進めたい。

中学生以下と75歳以上は、遠距離移動手段がなくても、気軽に外出できる環境等が重要と認識。公共交通会議での議論を参考に、運賃料金協議会で決定する予定。



やまだ しんいち
山田 眞悟
議員



A ニーズ調査結果を報告し、共助版ライドシェア「ウラ・うらら」の実施を目指すことを説明した。

東浦中学校移転先用地の安全対策

Q 移転先の文化広場東側は「土砂災害警戒区域」と「土砂災害特別警戒区域」。安全対策を。

A 移転にあたり区域除外ができる程度の改修補強を。

また、移転にあたり区域除外ができる程度の改修補強を。建物配置等計画段階から配慮し、安全確保に努める。

区域の指定・解除は、県の技術的評価を踏まえて判断される。関係機関と連携し、災害リスク低減に取り組み。

東浦中学校移転先の駐車場用地

Q 町体育館の一部が借地。移転までの用地買収を望むが状況は。

A これらの土地は、一体的な整備を検討するうえで重要なエリア。土地所有者の意向や財政状況を見極めながら、買収に取り組む。



豆搗川ジョギングコース整備を

A 道路等の維持管理の中で対応

Q 500組を超える参加があった「東浦健康ラン・ウォーク」の評価は。また、町内のジョギング・ランニング需要の認識は。

A 住民が自主的に企画運営し、大変有意義な取り組み。運営アドバイザー・ランニング需要の認識は。

また、イベントの参加状況から、需要は高いと認識している。



おおかわ あきら
大川 晃
議員



A 処理量は6万3290kg。廃棄費用は126万5800円。

Q バイオ式生ごみ処理機^①の導入について、本町の見解は。

A 業務量や異物混入等の課題を踏まえ、バイオ式生ごみ処理機や他自治体の事例を調査研究する。

新型コロナウイルスの認識と今後の対応

Q 6年の死亡原因全体の2.2%が新型コロナウイルス感染症。本町の認識は。

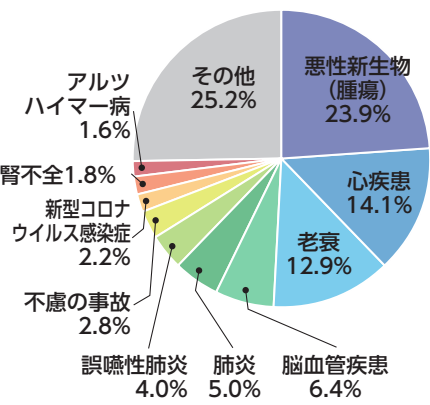
A 重く受け止めるべき状況で、感染症対策の継続が必要である。

Q 豆搗川ジョギングコースを整備する考えは。また、簡易案内看板、安全確保の工夫等段階的整備の考えは。

A 新たなコースの整備や案内看板の整備は考えていない。通行に支障がないよう、通常の道路等の維持管理の中で対応していく。

生ごみ資源循環サイクルの構築を

Q 令和6年度に学校給食センターから発生した残渣等の処理量と、その廃棄費用は。



▲主な死因の構成割合 (厚生労働省の令和6年人口動態統計に基づき作成)

①バイオ式生ごみ処理機…処理機の中の微生物がごみを分解する仕組み。処理後の生ごみは堆肥として利用できる。

語句説明

Q 緒川相生交差点の渋滞対策は



もり やすひろ
議員



A 早期の道路整備を県へ要望

Q 緒川相生交差点では、町道森岡藤江線で朝夕の時間帯を中心に渋滞が発生している。現状認識と対策は。

A 朝夕の渋滞を確認した。渋滞の主な要因は、町内の幹線道路が東西方向と南北とも不足しており、交通が特定の道路に集中していること。抜本的な渋滞対策として、都市計画道路大府東浦線の整備が必要。未整備区間の早期の整備着手を県に強く要望していく。



▲朝渋滞中の町道森岡藤江線
緒川相生交差点方面(令和8年2月12日撮影)

Q 当該交差点は、南北の横断歩道に歩行者用信号がない。

通学路、付近に小売店舗や町施設があるため、歩行者用信号設置を要望するが、見解は。

A 当該交差点は小中学校の通学路だけではなく、地域住民も日常に利用している。

設置について、本町から半田警察署へ相談や要請をしていく。

Q 当該交差点は南北に右折レーンが設置されているが、右折信号が無く、これが渋滞の一因と考える。現状認識と右折信号設置に向けた考え方は。

A 交通状況の調査結果では、右折車の一時的滞留は確認したが直進を妨げる状況ではない。

今後、交通環境に変化が生じた際は、交通量調査によって現状把握し、必要となれば信号のサイクルの見直しや右折矢印信号の設置について、本町から半田警察署へ相談や要請を行う。

Q ひきこもりの相談窓口は



あかがわ みさえ
赤川 操恵
議員



A ふくし課、社会福祉協議会等

Q ひきこもり相談窓口はどこか。また相談件数は。

A ふくし課、社会福祉協議会と高齢者相談支援センターが窓口。

令和7年度は1月末現在で347件、6年度は583件、5年度は681件。

Q ひきこもり状態の方の人数は。

A 具体的な人数は把握できないが、内閣府によると16歳から69歳の約50人に1人がひきこもり状態と公表されている。本町に当てはめると約600人と推測される。

Q 「8050問題」を把握・支援する取り組みは。

A 介護関係者や親からの相談等もあるが、包括的な把握は困難。コミュニティソーシャルワーカー^①が地域に向き、情報を集める等、問題の把握に努める必要がある。

地域共生社会の実現を目指し、4年度から重層的支援体制整備事業を実施。「世帯丸ごとプラン」を

作成し、複雑化・複合化する課題を解きほぐし、関係機関の役割分担や支援方針を定めていく。

Q 安心して相談ができる窓口の周知を。

A 東浦町社会福祉協議会が作成した「ひとりで悩んでいませんか?」カードをコンビニ等に設置し周知をしている。

SNSの活用等で進めるほか、コミュニティソーシャルワーカー等が地域に積極的に出向き、声なき声に耳を傾け、支援につなげていきたいと考えている。

▲匿名でも大丈夫。相談してください。

①コミュニティソーシャルワーカー…地域に向いて生活に困りごとを抱える人の相談を受け、関係機関や住民と連携し、地域での支えあい活動が広がる手伝いをしている人

Q 金属スクラップヤード等の対策は



ながさか ともやす 知泰 議員



A 国が全国統一制度の方向を示す

金属スクラップヤード等対策は

Q 金属スクラップ等の再生資源の保管場所がある施設について、近年、全国の都市部郊外で土壌汚染、悪臭の発生等環境を損なう事例が増加と聞く。

愛知県内と本町の施設数は。

A 廃棄物処理法で「廃棄物」と定義されない「有価物」は、有害使用機器を除き、適正な分別・保管等の規制を受けないため、愛知県も保管等事業場の数は、正確に把握することはできない。

苦情により把握した再生資源保管等事業場は24カ所と伺っている。



▲出典：千葉県環境生活部ヤード・残土対策課「金属スクラップヤード等対策について」より

本町も再生資源物保管等事業場の数は把握できない。

Q 本町は金属スクラップ等の再生資源物の屋外保管に対して、規制を行う条例を制定する意向はないか。

また国も規制強化の報道があるが見込まれる方向、内容は。

A 昨今、一部の自治体での、再生資源物の屋外保管等に関する条例制定は認識している。

また、環境省の諮問機関である中央環境審議会でも、不適正スクラップヤード問題への対応が取り上げられ、廃棄物処理法で規制されない再生資源物の保管等事業場は、適正な処理確保のためにも、全国で統一の創設が必要との方向性が示されている。

これらを踏まえ本町は、全国で統一の創設を早急に創設するよう国へ働きかけるとともに、国の動向も注視しながら、本町での条例の必要性を判断していきたい。

Q 給食の食育(地産地消)は



あきば ふじこ 秋葉富士子 議員



A 地域の食文化や農業への理解を

食育推進(地産地消)の内容は。

A 地域の食文化と農業への理解関心を高める取り組みを進めている。「食育の日」には、愛知県産食材の献立や、愛知県の郷土料理を提供。

「地産地消」については、令和8年度に大根、キャベツ等特別な食材提供を4回、お米、ぶどうの収穫体験を2回計画している。

Q 美味しい給食、楽しい給食への取り組みは。

A 二重保温食缶^②で美味しく提供。さらに楽しい給食を意識し、児童生徒の季節のイベントに合わせた行事食や「セレクトデザート」で食への関心を高めている。

Q 8年4月からの小学生、中学生の給食費の負担額は。

A 小学生は「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」を活用し、無償化できる予算を提案。

中学生は同交付金を活用し、年

間最大6040円の保護者の経済的負担軽減を図る予定。

生活困窮者の住宅支援

Q 7年4月から「地域居住支援事業」がスタートした。周知が重要だと考えるが、見解は。

A 町社会福祉協議会が「ひとりでお困りませんか?」カードを作成し、相談先を周知している。

また、コミュニティソーシャルワーカーによる積極的な働きかけを実施している。加えて民生委員・児童委員等に本事業の周知を進め、支援が必要な方へ確実に届くよう取り組んでいる。



▲小中学校へ給食を調理配送している東浦町学校給食センター

語句説明

①金属スクラップヤード…再生利用を目的として収集された金属を業として取引を行うため、屋外に保管する屋外保管事業場
②二重保温食缶…料理を温かいものは温かく、冷たいものは冷たく提供できる食缶

Q 水道料金値上げの見直し求める

A 早期の料金改定が望ましい

Q 物価高騰は収束の兆しが見えず、町民の生活は日々の食費や光熱費の上昇で圧迫されている状況。現在の状況で、令和8年度に水道料金の引き上げは適切か。値上げの見直しを求めるが見解は。

A 水道事業及び下水道事業審議会で、「水道料金の適正化」が議論された。

人口減少等で給水収益等の減少や施設の耐震化、老朽化対策等、水道事業は年々厳しさを増している。本町では、13年度には経常収支が赤字に転じる見込み。これらを踏まえ、安定的かつ持続的な事業経営のため、可能な限り早期の料金改定が望ましいと考える。



▲安心して使える水道料金の設定に



すぎもと くにこ
杉下久仁子
議員



ハラスメント①防止条例の制定を

Q 近年、首長や議員を含む特別職も対象としたハラスメント防止条例を制定している自治体が増えている。本町でも条例制定を通じ、明確なルールと責任の所在を示すことが必要と考えるが見解は。

A 相談体制は、人事課内にハラスメント相談窓口、愛知県人事委員会による苦情相談制度の活用を通じ、第三者に相談できる体制がある。また管理職を含む全職員対象のハラスメント研修を実施し、ハラスメント行為に対する理解を深め未然防止に取り組んでいる。このことから、現時点でハラスメント防止条例を制定する必要はないと考えている。

※その他の質問

「職員の超過勤務時間の解消と、次世代育成支援の観点からの働き方改革について」

Q 理想の教員像は

A 成長する意欲を引き出す

Q 町としての理想の教員像は。

A 児童生徒一人ひとりを深く理解し、その思いに寄り添おうとする感性を持つことが前提である。成長意欲を引き出し、教育環境整備の意思を持つことも求められる。

変化が激しい現代では、教員自身が学び続ける姿勢を持ち、時代の要請や多様化する教育課題への柔軟な対応力も必要。まさに「学び続ける者だけが、学び続ける子どもを育成できる」といえる。

教員像の実現には、心身の健康が非常に重要である。持続的に学びや成長を支えるには、自身の健



▲片葩小学校の授業風景



まえだ あきひろ
前田 明弘
議員



康を維持し、自分の状況を振り返る余裕を持つことが不可欠である。

Q 特別支援教育②は、教育の原点と考える。重要性について見解は。

A 一人ひとりの違いを正確に理解し、違いに応じた支援と指導を行うという教育の本質を体現している点で「教育の原点」といえる。

「一人を粗末にするとき、教育はその輝きを失う」という基本理念に基づき、教育の原点そのもの。

愛知県の

体力テスト全国平均以下

Q テスト結果を踏まえた保健体育の取り組みの方向性は。

A 個人差に対応した授業を展開。多様な運動やスポーツに触れる機会を提供し、大人になっても継続して楽しめることを目指す。今後は個別化や個性を尊重した教育をさらに推進し、生涯学習へつなげることで、児童生徒の体力向上や生活基盤を構築したい。

向上や生活基盤を構築したい。

語句説明

①ハラスメント…嫌がらせをして相手に不快感を与える行為

②特別支援教育…発達障害や身体的な障害等学習や生活の中で困難を抱える子どもに対して、その困難を軽減するために適切な指導や支援を行う教育のこと